



1 災害復旧拠点を襲った津波 (岩手県陸前高田市役所) 2 標高の低い平野部で浸水が続いている (陸前高田市中部・9/13撮影)
3 直線的海岸を襲った津波 (宮城県仙台市閉上3月13日11:52撮影) 4 液状化による二次被害、約70cm下水道管が隆起 (千葉県浦安市)
5 今まで強い構造物だと思われていた鉄筋コンクリート造りの基礎杭が、おそらく液状化によって抜けてしまい、その後津波によって横倒しになった。(宮城県女川町)

東日本大震災から学ぶこと

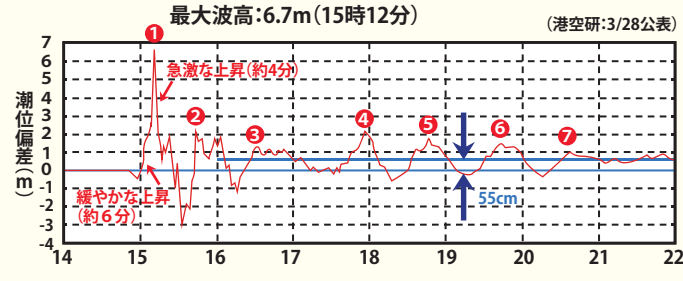
高知大学 南海地震対策センター 原准教授による講演

東日本大震災の概要

東日本での被害を総括しますと、約1万5千人の尊い命が一瞬のうちに奪われました。建築物の被害では、全壊が約12万戸で、ほとんどが津波によって流されています。避難者数は、11月15日の内閣府の発表によると、約7万人の方が避難生活を送られています。震災直後の3月14日には、約50万人の方が一時的に避難生活をしていました。

津波は、地震から30分後に来襲しています。その最大波高が海上で約7m。リアス式湾では、陸地に行くに従ってどんどん高くなつていきました。津波は、第1波はそんなに高くないと思われている方がいると思います。が、今回の地震では、第1波が一番大きい津波でした。そして繰り返し襲う津波は、約6時間の間に7つ発生しています。地盤も沈降しました。これはプレート形地震では必ず起こる

岩手南部沖GPS波浪計で捉えた3月11日の津波波形



津波の峰の高さは第1波が突出して高い
第4波以降は50分程度の周期の波の繰り返し
津波来襲後の潮位の観測値が全体的に55cm上昇

現象と言われており、牡鹿半島沖で測ってみましたと、約1m 20cm 沈下していました。では、次期南海地震による沈下はどれくらいかと言いますと、現在、高知市内で想定されているのが1m 95cm ですので、東日本より大きい地盤沈下が起こるのではないかと予想されています。

異なる地震災害

東日本の震災と南海地震は一つだけ異なることがあります。私たちが住んでいる高知県は、ユーラシアプレートとフィリピン海プレートの境界上にあります。そのため南海地震の震源域は、私たちが住んでいる陸地の真下になります。東日本の震災では、津波で家が壊れるというのが顕著でしたが、南海地震は、非常に強い揺れが100秒以上続くといわれていますので、揺れそのもので家を壊します。

南海地震の被害想定

皆さんに次の南海地震で心配をしてほしいのは、昭和の南海地震よりはるかに大きな地震になるということです。現在の国の想定では、東海、東南海、南海の3連動かつ、冬の早朝に地震が発生するとした場合のシミュレーションによると、高知県内だけで、家屋が8万棟壊



▲仙台空港を襲った津波 3.11pm3:56

被災地を応援しよう

野市グリーンコンサート チャリティーコンサート

11月20日(日)に開催しました東日本大震災チャリティーコンサートとだけ!!心の歌♥愛の歌では、高知から被災地にピアノを贈るという趣旨にご賛同いただき、募金にご協力いただきましてありがとうございます。早速、入場料の1割と合わせて10万円を、被災地にピアノを贈る活動をして「一滴の会」に贈らせていただきました。皆さまの温かい御志は、ピアノの音色になつて、被災地の皆さまの心に届くことでしょうか。本当にありがとうございました。



東日本大震災の教え

私たち人間は、忘れやすい性質を持っていますが、今回の被災の経験を忘れてはなりません。必ず来る南海地震に向けて、私たちはどういったことを考え行動すればいいのか。問題は確かに山積しています。それでも地震は起こります。東日本大震災で絶対に教訓にしないといけないことは、自然に対して謙虚になることです。地震というのはいくら科学が進歩しても予測は難しく、ハード整備ばかりに頼つてもいられません。被害を軽減するためには自分自身で考え行動することが大事と言つたことを、東日本大震災は教えてくれました。

- 【講演の感想】 ●揺れと津波の両方の対策の必要性が再認識できた。
●自分の住んでいる所の特性を知ること。自宅の状況把握。地域住民との連携。家族との連絡方法。自主防の大切さを認識。

福島県鏡石町の幼稚園児にクリスマス★プレゼント

鏡石町は旧香我美町が、「全国で町名に『かがみ』を持つまちが集まる『かがみサミット』として交流を行ってきた町で、このたびの東日本大震災での被害を受け、友好都市、防災協定締結都市として香南市でも物資援助等を行ってきました。

今回、交流のあった香我美幼稚園が親子で鏡石町の幼稚園の子どもたちのために何かできないかと、クリスマスのメッセージカードを届けることになりました。

また、鏡石町の被災、復興写真を香南ふれあい祭り等で展示したときお願いした「クリスマスプレゼント」を贈るための募金箱に寄せられたお金で、幼稚園の子どもたちにプレゼント(お菓子)を贈ることもできました。

今回協力いただいた方々にお礼を申し上げます。今後も、友好都市としての交流を予定しており、鏡石町の子どもたちに笑顔をお届けしていきたいと思っています。

◆問い合わせ
企画課 ☎57-8503



プロフィール

原 忠 (はら ただし)
1974年生まれ
1997.3 中央大学大学院 (理工学部土木工学科) 修了
2005.4 中央大学理工学部 土木工学科助手
2009.4 和歌山工業高等専門学校 環境都市工学科 准教授
2010.4 高知大学教育研究部 自然科学系農学部 准教授
2010.4 高知大学南海地震防災支援センター 准教授(兼務)～現在